

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4470103807
法人名	医療法人 博光会
事業所名	グループホーム つかがわ
訪問調査日	平成21年 8月31日
評価確定日	平成21年10月14日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4470103807
法人名	医療法人 博光会
事業所名	グループホームつかがわ
所在地	大分市東春日5-25 (電話) 097-548-5122

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年8月31日	評価確定日	平成21年10月14日

【情報提供票より】 (平成21年8月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	16.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	5階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (平成21年8月9日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	6 名
要介護5	8 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.6 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塚川第一病院 矢野眼科 高橋歯科 ハロー歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 大分市の中心地に建つ、医療法人運営の5階建て介護ホーム2階3階部分がグループホームとなっている。文化施設、商業施設が徒歩圏にあり、利便性に優れている。桜並木や大きな公園も隣接していて、季節の移り変わりや自然も体感できる環境である。
- 2 事業所の母体法人の医療・通所・小規模多機能などの職員が連携、協力して、利用者を支援する体制がつけられている。
- 3 管理者は、常勤・非常勤の区別なく、年間研修計画をたて、院内・院外自主研修など、レベル、役割に合わせた職員教育に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の評価結果では、改善課題はなかったが、外部評価を事業所の様々な取り組みの見直しの機会として取り組む姿勢を持っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は、18名の職員それぞれが、日々の取り組みをもとに記入し、管理者がそれらの記録をまとめるという形で作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の議事進行は、運営推進委員の自治委員が行い、法人の介護部門全体の会議として開催されている。事業所の資料として活動内容、利用者の状況を書面で用意し、報告が行われている。参加者からは、「地域の介護の知識や情報の発信の場、相談の場となってほしい」との要望がある。相談ごとなどは、事業所担当者に連絡があり、解決に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日常の面会の際にも、家族が、要望などを言いやすい環境が出来ており、要望があれば、状況に合わせた改善に努めている。職員異動時は事業所全体の異動職員の顔写真入りの号外を出すことにより、担当者交代の不安解消に努めている。家族会はないが、家族交流会や忘年会の際には、家族の参加を求め、参加家族のみの交流の時間を取ることにより、忌憚ない意見をくみ取る工夫がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月、地区の保育園との訪問交流が行われている。地域の祭りや老人会、文化祭などの行事への積極的な参加により、地域交流をはかっている。隣接する地区の公園の清掃を全面的に引き受け、老人会から感謝されている。自治会からは利用者の休息用に公園にベンチの増設をしてもらっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念にある「ぬくもり」を基盤にした、「目で見て」「耳で聞いて」「手をさしのべて」という利用者の支援の中心となる理念を掲げている。地域や利用者の重度化などの変化を考慮し、現状に添った新しい理念について取り組む姿勢を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員教育の中で、理念の理解に重きをおいている。また、日々の支援が理念の反映されたものとなるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月保育園との交流を行っている。自治会や老人会への入会はしていないが、地域の祭りや老人会、文化祭などへの積極的な参加を行っている。事業所の行事に老人会のボランティアの参加がある。事業所は、隣接する公園の清掃を全面的に引き受け、清掃を担当する老人会から感謝されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を、事業所の日常の取り組みの振り返りや見直しの機会ととらえている。		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な立場の人々が運営推進委員となり、2ヶ月に1度、多くの参加者のもと開催されている。事業所は、活動報告や利用者の状況報告を書面で報告している。また、管理者は専門職として認知症や介護などの資料を配布し、議論を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市役所への訪問や電話で、積極的に事業所の状況報告を行っている。今年度、市の委託事業として、「認知症家族支援講座」を開催した。講座終了後、参加者から集まりの場として継続を望まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、個々の利用者の様子を、担当職員が写真や文面で報告し、定期的に応報誌を送付している。職員異動時は、法人全体の異動職員の顔写真を入れ号外として送付している。金銭管理は、使用した都度に領収書添付と出納帳記入がされており、家族が確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所行事に家族の参加や交流する場が多く盛り込まれており、家族からの意見や要望は、面会や行事の際に直接提案されている。それらは利用者の状況を配慮し、運営や改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にとどめるよう配慮されている。また、日常の中で、法人全体の職員が、いつでも見守り・対応が出来るような交流の場を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が立てられ、常勤・非常勤の区別なく、法人内・外・自主研修など、職員のレベルや役割に合わせた職員教育が行われている。法人外研修は、勤務や公休の併用により参加し、職員自身のモチベーションアップに繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政や他事業所から多くの訪問や見学を受けている。また「宅老所・グループホーム大分県連絡会(井戸端会議)」に参加し、情報交換や仲間作りに努めている。今後、他事業所との職員交流会を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は、法人の認知症デイケアや小規模の利用からの移行でグループホーム入居につなげている。職員や事業所と馴染みの関係が築かれた上での入居となっている。入居後もデイケアや小規模の職員との係わりを保っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の職歴や生活歴を考慮し、会話やコミュニケーションに組みこむことで、不安や不穏などの際の対応が図られている。利用者からの言葉かけや雰囲気により、職員が利用者に癒されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」のケアプランが作成され、利用者の情報は主に家族から聴取している。本人の思いや状況は、職員全員が「情報資料」として日常の係わりの中でくみ取る工夫を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が、日常のかかわりの中で身体症状や周辺情報を「情報資料」として記録し、介護計画に生かしている。利用者の担当制はあるが、職員全体が介護計画に係わっており、日常のケアに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度のモニタリング、3ヶ月ごとの評価、見直しを行っている。利用者の現状に合った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に合わせ、ケアホーム内のデイケアの協力で見守りをしたり、希望に添った外出、通院介助、帰宅支援などの柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が母体であるが、家族の希望や利用者の状況に合わせた医療機関の受診が行われている。近場の医療機関との良好な関係作りの努力もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や看取りについての話し合いを行い、重度化、看取りの時期には、その都度、家族と話し合いを持ち、それぞれの時期の同意書を交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は、研修などの学習の場が設けられ、職員に周知され支援に活かすよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールが、利用者の想いにより流れており、介護度の重度化により自己決定が限られた状況となっても、限られた中での「自己決定」が行えるよう工夫した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜は、病院の厨房で作られており、職員と利用者で取りに行っている。利用者の状況に合わせた刻み食などの加工は事業所の厨房で行われている。職員と利用者は同じテーブルを囲んで、食事介助も含め一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に3回を基本にしているが、希望や状況により回数や入浴場所を変えるなどの対応をしている。終日、床についている利用者は、毎日シャワー浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴や生活歴、全職員の記入した「情報資料」を活かした支援を基本にしており、役割や楽しみごとが日常生活の中に組み込まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、事業所の買い物、散歩、職員の仕事の付き添いなど、個別や少人数・集団などさまざまな形で、希望に添った外出支援を行っている		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵掛けされておらず、職員は鍵を掛けることを「身体拘束」として認識している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ケアホーム全体で月に1度の通報訓練、年2回の登院訓練、年2回の職員、利用者合同の避難訓練を行っている。運営推進会議で推進委員に緊急時の応援依頼を行っている。備蓄は、オムツは建物の4階に、食品その他は、病院に2週間分を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は、病院の管理栄養士の栄養管理のもと、主食と副菜1品以外は病院で作られている。主食も毎回計量されて配膳されている。栄養面での不足等感じた際は、食事・水分摂取記録を管理栄養士に見せ、助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、安全に配慮しながらも生活感のある、落ち着いた場所となっている。季節感を感じる手作りの飾りつけがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族や職員の協力のもと、利用者の生活や個性が感じられる置物や掲示物が置かれている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム つかがわ
所在地 (県・市町村名)	大分市東春日5-25
記入者名 (管理者)	小倉 礼子、管理者(若松 都紀江、内宮 るり子)
記入日	平成 21 年 8 月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちはいつもやさしい、『目で見て』『耳で聴いて』『手をさしのべて』、利用者の心の通った『ぬくもり』あるグループホームを目指し、地域に密着した支援を行う。を理念としています。 法人の理念に基づき、職員全員で考え、思いを共有しながらサービスを提供しています。	○ 開所して4年。安定期に入ったので、次のステップに向けての理念を考えていきたいと思います。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意味をミーティング、会議、朝・終礼時に確認する。新人職員は理念から説明を行い、全員で共有するよう努力しています。 またホーム内に理念を掲げ、理念に近づくよう心がけています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌、地域新聞、運営推進会議、家族とのふれあい等を通じて、理念・思いなどを伝える努力をしています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物へ行った先などで顔見知りとなり、レジで支払う行動を暖かく見守っていただいたり、雨が急に降り出して困っている時にホームまで傘に入れていただいたり、春日神社や商店街でよく声をかけていただいたりしながら地域にとけ込んでいます。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園・学校の運動会、老人会の行事、地域の祭り・文化祭と多くの行事に参加させて頂き、楽しい時間を過ごしています。 また、ホームの敬老会に老人会の方が来て下さり、交流を深めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の相談を気軽に受けています。『困っている高齢者がいるので行ってください。』と連絡があればすぐに訪問し、相談を受けることもあります。また、民生委員、自治委員さんとの連絡を密にして地域の情報を取り入れ、ニーズに応えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては職員18名全員が目を通し、自分なりに実践している内容を記入しています。管理者はスタッフの記録に目を通し、一人一人の思いを確認することができ、今後の質の向上に役立てる目標となっています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、『春日地区の発信地になってほしい』『相談相手になってほしい』とのご意見が毎回聞かれるので、相談を受けやすい窓口となるよう努力をしています。地域での行事を紹介していただくので、利用者の活動・参加の場の広がりを感じられます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例が発生したとき、また嬉しい時などに報告し、常に連絡を取り合っており、利用者様の利益につながるよう良い関係づくりをしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市からの配布資料・集団指導において学ぶ機会があります。成年後見制度においては、家族からの相談を受け、実際に副院長(心療内科医)につなげています。また、必要と思われる家族には深入りしないほどに声かけする場合があります。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内に限らず、博光会介護部として勉強を行っています。もし対象者がいたら、手順をふんで報告し、利用者様を守るようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に入る前に家族の困っていることを時間をかけて聴くようにしています。契約時は重要事項契約書を開き、項目別に納得するまで説明するようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を尊重しながら、行事計画を立てたり、買い物をしたり、おやつ作りをしています。15時のお茶の時間にも本人の意見を大事にして、好きなものを提供しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の顔写真、異動時の報告、遠方の家族への報告などを随時、定期的に行うことで家族とのコミュニケーションがより深い共有になるように努めています。お小遣いについては面会時に確認をいただいています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の御意見箱は誰もが入れやすいように玄関先に設置しています。家族とはコミュニケーションを深める環境作りを行い、自然体の中から意見をくみ取る努力をしています。(家族交流会・花見会・忘年会・日々の会話・お便り帳など)	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議の中で、部長の方から法人側の思いや、介護保険制度、運営の工夫など直接介護に関係のない雑学を一人の組織の人間としての向上目的として勉強しています。	○ 夜勤明けの職員は部長への報告を開所以来続けています。報告の中で、いろいろな話ができ、お互いの意識向上につながっていますので今後も続けていきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的に余裕のある人員配置をしていますが、利用者様の状況に応じて勤務を変更したりと家族・利用者様に不安を感じさせないよう柔軟な対応を行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にとどめるようにしています。(年一回程度) 常日頃から各フロア間の行き来をしているので、異動があってもさほど心の動揺は見られていません。時々、他のセクションへの手伝いを行うよう調整もしています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年間計画を立て、個人のレベル、また役割に合わせた研修を行っています。(院内研修・院外研修・自主研修・接遇委員など) チューターといった役割から多機能にわかれて研修を行い、個人のモチベーションアップになるよう計画的に行っています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学は、多く受け入れを行っています。来訪者から学ぶことも多く、感謝しています。 研修先で仲間作りを行い、お互いの情報交換を行うようにしています。	○ 来訪者は多いのですが、訪問することは少ないので、今後は訪問の機会を増やしていきたいです。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	上司とスタッフの間には常に話しやすい雰囲気作りをしています。また、朝の申し送り時には個人的な悩みも吸い上げる努力をしています。手紙の交換・家庭の事情の把握も行い、親しみのあるチームワーク作りに力を入れています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人のレベル・性格・技術・知識などを考え、役割を任命し、実績を評価しています。時には一人のために役割を作り、やりがいを見つけられるよう環境作りをしています。職員一人一人の良さを見つけられる努力をしています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様が困っていることがあればすぐ家族と面談し、本人が一番良いと思われる方法・工夫を考え、実施するようにしています。身体レベルの低下、認知症が進行した時など共有した対応策を考え、常時、本人の行動を観察し、早めに話を聴く努力をしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から相談があった時はひたすら話を聴くだけにしています。一～二時間にもなる時もあり、話をしている中で涙が流れる時点で励ましに変更し、それから困っている内容を分析して答えるようにしています。 受容あるのみの態度で接しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	[24]同様に話をひたすら聴いて、それから何が困っているかを分析し、当法人のサービスを説明するようにして、最後まで家族が自ら決定できるよう話を展開していきます。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに入所する前は、なるべく当法人のデイサービス・小規模を利用し、在宅と施設を半分ずつ利用し、その後グループホームに移行するなどの工夫をしながら環境の変化を最小限に抑えるようご家族に提案しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアのあり方として、利用者様から学ぶ姿勢を大事にしています。職員から相談をいう方法『料理の方法を教えてください』『人材育成の方法を教えてください』と常日頃から頼るようにしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様の喜ぶ表情を伝え、現状を共有するように努力しています。面会時にはアルバムを一緒に見たり、報告をしたり、誕生会の相談をしながら、利用者様を中心に共に支えあっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ケアプランはセンター方式を使用しています。過去の生活状況をご家族に記入していただき、利用者様との関係を深めるきっかけをいただいています。また、グループホーム内の生活状況を報告するようにして、関係を深める努力をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに友達が訪ねてきたり、住み慣れた場所に時折訪ねたり、行きつけの美容院に出かけたりしています。以前の職場に行き、従業員から刺激を受けたりもしました。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂の席、ソファ、外出時は気のある人同士を考えながらお誘いしています。なんとなく、仲間意識がうまれているので、大事に見守っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアプランチェック表、一ヶ月・三ヶ月の評価表、行事記録などの記録へその時々の状態を観察し、記録しながら個別ケアに活かせるように情報を共有しています。なお、ケアプランを作成するときは、これらの記録を参考にしています。	○	ケアプランの流れは出来つつあるので、今後はケアプランの実施内容をケースに記録する仕方をより充実させていきたいと考えています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスからグループホームへ入所された方が、不穏が続くため、デイ職員の協力を得ながら送迎から参加し、元の生活と同じ環境作りをすることで穏やかになりました。一人の利用者を介護職員65人全職員でケアする体制を整えながら、柔軟な対応をしています。また、家族の協力により、外出・外食も行い、家族との関係も深まるように努めています。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域からの協力の元で、利用者様の社会性が広くあります。定期的なボランティア、子供たち・保育園児たちとの交流が多く(月2～3回)あります。また、老人会の文化祭、学校、ふれあいサロンにもでかけ、近所つきあいも深く、地域の方々に深く感謝しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護部全体の考えとして、常にケアマネジャー・他事業所とのよい関係作りが大切であることを会議のたびに話しています。他事業所との信頼関係があつてこそ、利用者様への支援が充実することを学ぶ姿勢でいます。相談者があつた場合、他施設への紹介も行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとは常に連絡を取り合い、信頼関係ができています。双方の無理難題を解決しあえるように、グループホームの枠にとらわれず、広い意味での地域密着型サービス事業としての任務を果たせるように努めています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人ではありませんが、家族の希望により他病院に行ったり、主治医選択をしているので、塚川第一病院だけにこだわらず対応しています。訪問歯科も利用しています。特に近隣の外科医からホーム内での治療方法を教わりながら利用者様が安心できるように実施しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内で大声で個人の情報を言わないこと・排泄状況を大声で言わないこと・記録物の保管のチェックなど、ことあるごとに勉強を重ね、プライバシーの保護ができるように努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	外出・入浴準備の洋服選び、15時のおやつ飲み物の選択、外食の好みを聞くなどして、本人が自分で決定できる場面を日常生活の中に取り入れています。	○ 最近は全体的に利用者様のレベル低下が見られるので、レベルに合わせた自己決定方法を工夫していきたいと思えます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・行事と一日の大まかな流れは決まっていますが、小さい時間割りまでは決めていません。入浴を誘って『今は入りません。』と言われたら、時間をずらすなどして本人の気持ちを優先するようにしています。【今を大事にしましょう】という思いを大事にしながら支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容師・本人の行きたい美容院・ホームからお願いしている美容院の中から選択できるようにしています。髪染めにおいては『ホームで染めて』と言われれば職員が染め、日頃よりおしゃれに対して敏感になれるような空気になっています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が唯一の楽しみという方もいらっしゃるので、おやつ作り・昼食作り・お誕生日のケーキ作りなど利用者様の知恵・知識をかりながら、共に作り、共に楽しんでいます。(月に3～5回) 日常の食事作り・準備も応援していただいています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食後の梅酒・ビールでの晩酌時に、お寿司・お刺身と本人の好物をつまみにして個々に楽しんでもらっています。また、ファミリーレストラン・お寿司屋・ケーキ屋と外食にも出かけ、外出の楽しみも多く設けるように心がけています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的にオムツではなく、パンツ・リハビリパンツを利用しながらトイレ誘導を行っています。立位がとれない方・尿意のない方でも排尿表を利用しながら、時間ごとのトイレ誘導を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大体の時間は決めています。誘いに行き断られたら時間を変えて声掛けしています。一対一で、最初から最後まで一人の職員が関わるブリコラージュ方法で安心して、会話を楽しみながら行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるように日中から活動・散歩を心掛け、夕食後はすぐにベットにいかないように、リビングでお茶を飲んだり、一緒にテレビやDVDを見ながらくつろぐ時間を設け、安眠につなげています。眠る前に、三人ほどで梅酒を飲まれる方もいます。なるべく眠剤を使わないで、日中から生活リズム作りを支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人ができる役割はケアプランに入れて、より張り合いのある生活支援を心掛けるようにしています。グループホーム内だけの生活でなく、介護ホーム全体で行事を考え、行き来していることで、生活の視野が広くなり、楽しみも数多くある日常生活になっています。『今日は何があるの?』と利用者様から朝、催促されています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が小遣いとして持っている方もいらっしゃいますが、日常的には所持していない方もお店のなかでは自分で支払うように働きかけています。このようにして、社会性の維持につなげるような環境作りをしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日一回は個別、二人くらいで散歩に出かけています。買い物・春日神社・オアシス・竹町・公園と散歩コースを自分で選択していただくようにしています。また、部長に用事がある時職員は一人で行かず、必ず利用者様を誘って、気分転換してもらっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員と利用者、また家族と利用者職員とで、レストランやトキハの音楽会・展示会・催展などによくかけています。環境的に恵まれているので、社会資源の活用は十分に行えていると思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いは顔写真入りの葉書を利用者様と一緒に書いて、ご家族に出しています。担当者が変わった場合や、遠方の家族には近況報告を手紙や電話で行っています。家族とのつながりを密にし、安心して生活ができるように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人の面会は月に40～50人ほどあります。皆さん来られたらホールで楽しく談笑しながら、他の利用者様にも気配りしていただいています。面会のときは職員も一緒に輪の中に入り、アルバムを見ていただきながら、普段の生活を理解していただくようにしています。	○	家族の訪問は多いですが、本人の馴染みの方の訪問が少ないので、家族に協力を得ながら、一人でも多くのかたに来訪していただけたらと思います。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を理解できるように全体会議で勉強しながら、何か実施するときは身体拘束につながらないかを考えながら行動しています。認知症があり、点滴の針をぬいてしまう時は、点滴が終わるまで付き添っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	[66]同様。 拘束の意味を理解していますが、徘徊症状のある利用者様のいる時は、夕方一時間くらい早く鍵をかけますが、他の時間帯は鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者全員が危険な状態にあることを職員で共有し、一人一人の対応に心がけています。中には、常に手をつないで歩く方もいらっしゃいます。何事も安全第一を考えて、支援しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危ないからといってすべてを手の届かない場所に保管するのではなく、はさみ・針などは利用者様がすぐ使える場所に保管し、その管理には十分注意をしています。包丁・洗剤・ハイターなど身体に危険なものは手の届かない場所に保管しています。制限のない環境作りに配慮していきたいと思います。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット委員を全部署に配置し、ヒヤリ→インシデント→検証と一連の流れを分析し、少しでもインシデントにつながらない体制を整えています。リスクマネジメントの勉強も行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	春・秋と年に二回、日本赤十字より心肺蘇生法の訓練を行っています。 事故発生時や緊急時対応のマニュアルを作成し、定期的に見直し、勉強しています。利用者様の安全を守る方法を訓練及び勉強などで強化しています。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の場で、当法人に何かあった時の要請を依頼しています。 月一回の通報訓練・年二回の登院訓練・年二回の避難訓練などを定期的に行い、いざという時に備えています。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	高齢者はリスクが高いので、一人一人何が起こりやすいかを説明し、家族に説明し、同意書をいただいています。(転倒・誤嚥など) リスクに対する対応策は個別に異なるので、その説明も十分に行い、理解していただくようにしています。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常日頃の状態を把握した上で、異常と感じた時はすぐに上司に連絡する体制をとっています。 早期対応の大切さ、報告時の言葉の使い方も勉強しています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別服薬表をファイルして、全員が共有できるようにしています。 個別の薬ケースを作り、目で見てわかりやすいようにしています。 会議のたびに誤薬・飲み忘れの怖さを伝えて、安全を守るようにしています。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬を使わずに自然排便が行えるように、食事量・水分量・運動量を把握し、分析して、一人一人の状況に応じた工夫を行っています。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員が三食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保っています。 また認知症のため、口腔ケアが難しい方では、訪問歯科の協力を得て、指導してもらったり、歯石除去をお願いしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量はチェック表に記入し、利用者の状態を把握しています。 食事が低下した場合は、食の好み・形態・栄養補助食品などで工夫し、本人の健康を損なわないような食生活を支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員は病院・市・保健所の勉強に参加し、全職員にフィードバックして知識を深めるようにしています。 外出から帰ったら車いすの車輪を拭きあげ、共有部分はオスバン消毒し、感染予防を行っています。 また、感染マニュアルを作成し、勉強会の資料としています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハイター消毒・日光消毒・熱湯消毒を定期的に行い、食中毒の予防としています。 冷蔵庫の食品も定期的に整理し、賞味期限に気をつけ、衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	観葉植物・ベランダのプランターと花と緑を多用し、気分が和むように工夫しています。水やりや、草取りなどの手入れを手伝っていただいています。 昔懐かしい品物を飾り、日々の会話のきっかけにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには布で作ったタペストリー(利用者様との共同制作)を飾り、季節感を味わっていただいています。その他昔馴染みの時計や郷土品を置き、落ち着いた雰囲気になるように心がけています。 大人の居住空間であることを念頭に環境作りに努力しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・サンルーム・ホールとそれぞれの自分の居心地の良い場所が決まっているようですので、なるべく一人一人の意に沿った生活を見守るようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は家族の方が利用者様の好みの品物・写真を飾って、落ち着ける空間を作っています。 居室入口の暖簾は、家族が利用者様が喜ぶだろうと思うものを選んでくださっています。季節に合わせた手作りの暖簾もあります。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調が完備されているので、快適な温度設定ができています。 朝・夕とホール・全居室の換気を行い、アロマを散布して、空気のおよみのないようになっています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理場は誰もが参加できるように、また目で見て楽しめるようにアイランドキッチンを設置して調理をしています。 危険と思われる場所には手すり、靴を履く場所には椅子を置くなどして、安全な生活が送れるように配置しています。生活していく中で、不便を感じたら、すぐに改善するように心がけています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のできることを把握し、調理補助・洗濯干しの物品運びなど、少しの手助けを行うことで、利用者様のできることへの自信と達成感が得られるように支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節ごとの花を育てています。 前の公園を自分たちの庭のように、夕涼み・子供たちとのふれあい・動物たちとのふれあいの場として活用し、日々の生活の楽しみにつなげています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームつかがわは山・川・街中・海・と豊かな生活環境の中に設置されていて、社会資源を有効活用できることで『元気ある生活』、そして病気になった時の『医療体制の充実による安心』。医療と介護による利用者様へ安心したサービスが提供できます。

①地域との交流を大事にしています。

- ・クローバー公園の清掃、ごみ拾い、クローバー公園での子供たちとの交流。
- ・地域のお祭り参加（春日神社）、運動会参加、老人会の敬老会、花見の参加。
- ・毎日の散歩、買い物で社会参加。

②一人一人の思い、家族の思いは何であるのかを常に考え、『楽しい』『ぬくもり』あるグループホームを目指しています。